



2022年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年12月10日

上場会社名 株式会社アクシーア 上場取引所 東
 コード番号 4936 URL https://axxia.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 段 卓
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 福井 康人 TEL 03 (6911) 3899
 四半期報告書提出予定日 2021年12月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2022年7月期第1四半期の連結業績（2021年8月1日～2021年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年7月期第1四半期	1,788	46.0	321	5.4	333	7.7	218	4.5
2021年7月期第1四半期	1,225	—	305	—	309	—	209	—

(注) 包括利益 2022年7月期第1四半期 239百万円 (9.0%) 2021年7月期第1四半期 219百万円 (—)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年7月期第1四半期	8.48	8.45
2021年7月期第1四半期	9.19	—

- (注) 1. 当社は、第1四半期の業績開示を2021年7月期より行っているため、2021年7月期第1四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。
2. 当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。
3. 2021年7月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年7月期第1四半期	8,217	7,415	90.2
2021年7月期	8,267	7,193	87.0

(参考) 自己資本 2022年7月期第1四半期 7,415百万円 2021年7月期 7,193百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年7月期	—	—	—	—	—
2022年7月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年7月期の連結業績予想（2021年8月1日～2022年7月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,117	23.0	1,466	6.1	1,424	3.9	930	7.1	36.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年7月期1Q	25,800,000株	2021年7月期	25,800,000株
② 期末自己株式数	2022年7月期1Q	ー株	2021年7月期	ー株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年7月期1Q	25,800,000株	2021年7月期1Q	22,800,000株

(注) 当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2021年8月1日～2021年10月31日）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞が依然として続いておりますが、新型コロナウイルスワクチンの接種率の上昇等に伴い、東京オリンピック・パラリンピック開催期間終了後の9月には急速に鎮静化に向かいました。今後の経済活動再開に大きな期待が持たれていますが、新型コロナウイルスの新たな変異株が確認される等、いまだ先行き不透明な状況にあります。

国内化粧品市場においては、感染症流行の鎮静化がみられるものの、新型コロナウイルス感染症による入国規制によるインバウンド需要は依然として回復の見通しがたたず、消費マインドの冷え込みが継続しており、先行きは不透明な状況が続いております。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う日常生活の変容が進む中、いわゆる巣ごもり需要やインターネット購入の拡大により、Eコマースの重要性が増しております。

海外化粧品市場においても、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等により先行きは不透明な状況が続いていますが、中国市場においては感染者数減少を受けて、Eコマース市場を中心に回復傾向が見られております。

このような市場環境のもと、当社グループでは、中国本土において広告投資を強化、販売力の強化を図るとともに、次世代の成長製品を創出すべく取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における経営成績は次のとおりとなりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。以下の当第1四半期連結累計期間における経営成績に関する説明につきまして、前年同期比の数字は「収益認識に関する会計基準」等の適用前の従来基準による前年同期の数字と比較しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、国内売上は低調であったものの、越境ECを含め中国国内での売上が引き続き好調に推移したことにより1,788,917千円となり、営業利益は321,886千円、経常利益は333,121千円となりました。以上の結果により、親会社株主に帰属する四半期純利益は218,888千円となりました。

また、当社グループは化粧品事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

[業績の概要]

(単位：百万円、%)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前年同期比
売上高	1,225	1,788	+46.0
営業利益	305	321	+5.4
経常利益	309	333	+7.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	209	218	+4.5

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて50,480千円減少し、8,217,040千円（前連結会計年度末比0.6%減）となりました。このうち流動資産は、前連結会計年度末に比べて30,426千円減少し、7,659,607千円（前連結会計年度末比0.4%減）となり、固定資産は、前連結会計年度末に比べて20,054千円減少し、557,433千円（前連結会計年度末比3.5%減）となりました。流動資産の主な減少要因は、売掛金の回収等による売掛金の減少81,093千円等によるもの、固定資産の主な減少要因は、有形固定資産の減少44,580千円等によるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて272,932千円減少し、801,319千円（前連結会計年度末比25.4%減）となりました。このうち流動負債は、前連結会計年度末に比べて243,360千円減少し、714,737千円（前連結会計年度末比25.4%減）となり、固定負債は、前連結会計年度末に比べて29,572千円減少し、86,581千円（前連結会計年度末比25.5%減）となりました。流動負債の主な減少要因は、未払法人税等の納税による減少292,666千円等によるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて222,452千円増加し、7,415,721千円（前連結会計年度末比3.1%増）となりました。主な増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益218,888

千円を計上したこと等によるものです。

なお、自己資本比率は90.2%（前連結会計年度末は87.0%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年7月期の業績予想につきましては、2021年9月13日に公表いたしました「2021年7月期 決算短信」から変更はございません。

なお、当該業績予想につきましては、本日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,935,360	5,853,672
売掛金	439,678	358,584
製品	733,193	774,286
原材料及び貯蔵品	374,370	407,713
その他	209,053	266,972
貸倒引当金	△1,621	△1,621
流動資産合計	7,690,033	7,659,607
固定資産		
有形固定資産	364,583	320,002
無形固定資産	77,008	103,829
投資その他の資産	135,895	133,600
固定資産合計	577,487	557,433
資産合計	8,267,521	8,217,040

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	160,570	245,184
1年内返済予定の長期借入金	72,544	72,544
未払法人税等	392,517	99,851
賞与引当金	10,971	29,925
その他	321,493	267,232
流動負債合計	958,098	714,737
固定負債		
長期借入金	63,134	61,748
その他	53,020	24,833
固定負債合計	116,154	86,581
負債合計	1,074,252	801,319
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,109,875	2,109,875
資本剰余金	2,011,875	2,011,875
利益剰余金	3,042,755	3,244,991
株主資本合計	7,164,505	7,366,741
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	—	△4,122
為替換算調整勘定	28,764	53,101
その他の包括利益累計額合計	28,764	48,979
純資産合計	7,193,269	7,415,721
負債純資産合計	8,267,521	8,217,040

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2020年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2021年10月31日)
売上高	1,225,648	1,788,917
売上原価	357,367	501,788
売上総利益	868,281	1,287,129
販売費及び一般管理費	562,982	965,242
営業利益	305,298	321,886
営業外収益		
受取利息及び配当金	166	239
為替差益	3,701	12,048
その他	757	99
営業外収益合計	4,625	12,388
営業外費用		
支払利息	624	1,050
その他	117	103
営業外費用合計	742	1,153
経常利益	309,181	333,121
税金等調整前四半期純利益	309,181	333,121
法人税、住民税及び事業税	116,431	100,463
法人税等調整額	△16,726	13,769
法人税等合計	99,704	114,233
四半期純利益	209,476	218,888
親会社株主に帰属する四半期純利益	209,476	218,888

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2020年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2021年10月31日)
四半期純利益	209,476	218,888
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	—	△4,122
為替換算調整勘定	9,970	24,337
その他の包括利益合計	9,970	20,215
四半期包括利益	219,446	239,103
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	219,446	239,103
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計年度の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換を受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

ただし、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品の国内の販売において、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結損益計算書は売上高が10,277千円、売上原価が2,884千円、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が3,388千円それぞれ増加しております。また、利益剰余金の当期首残高が16,651千円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2020年8月1日 至 2020年10月31日）

当社グループは、「化粧品事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2021年8月1日 至 2021年10月31日）

当社グループは、「化粧品事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。